

2020年度 教科課程

鍼灸科

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	講義概要
基礎分野	科学的思考の 基盤 人間と生活	生物学 (Biology)	必修	講義	30	(2)	生理学を理解するために必要な人体生理機能ならびに基礎的な科学について学習し、生理学への橋渡しを目的とする。細胞組織の基本的構造や物質輸送について理解する。生物動物における環境変化に対する反応について理解する。
		情報処理学 (Information Processing)	"	演習	60	(2)	コンピューターの基礎知識から基本的操作方法について学習する。プレゼンテーションソフトを活用してプレゼンテーションの資料作りができる。SNSなどインターネット環境におけるリスク管理について理解する。
		外国語 (Foreign Language)	"	講義	30	(2)	鍼灸はその効果より国内のみならず海外においてもそのニーズは高く、活躍の場が世界に広がっている。また施術所に来院される患者の国籍も多様化していることから日常的な英会話力を養い、交流を図れる力を養う。最低限の自己表現ができるコミュニケーション力を身につける。
		保健体育 I (Health and Physical Education I)	"	演習	30	(1)	スポーツ活動を通じて運動の楽しさや喜び、チームワークの重要性や責任、参画などに対する意欲などを育む。スポーツが第一次予防の視点から生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学習する。スポーツの意義について説明できる。生活習慣病・加齢に伴う生活機能の低下に対するスポーツの予防医学的重要性を説明できる。
		保健体育 II (Health and Physical Education II)	"	"	30	(1)	運動機能に関心をもち、ウォーミングアップやクーリングダウン、スポーツ現場における一次救命処置などに関する基礎的な知識についてスポーツ活動を通じて学習する。科学的根拠に基づいた適切なウォーミングアップ、クーリングダウンを実践できる。一次救命処置を理解し、応急処置法を身につける。
		保健体育 III (Health and Physical Education III)	"	"	30	(1)	健康づくりや体力増進に必要なトレーニングや競技特性を理解し、傷害予防についてスポーツ活動を通じて学習する。レジスタンス運動の種類について説明できる。身体各部のレジスタンストレーニングについて説明できる。スポーツ競技特性による傷害について説明できる。
		人間関係心理学 (Interpersonal Psychology)	"	講義	60	(4)	社会生活を営むに当たって必要な一般的常識からマナーについて学習する。グループワーク等を通じてより良い人間関係構築のための交流、協力、連携、心を通わせ、他者とのコミュニケーションについて学習する。グループワーク、レクリエーションが及ぼす対人関係の効果について理解し、より良い人間関係構築を目指す意識と行動を実践できる知識を理解する。クラス運営や就職先などの集団でのより良い人間関係構築が実践できる。対人(個人)とのより良い人間関係構築に必要な行動観察技法や観察による情報の取得ができる。
		高齢者の心理と支援 (Geriatric Psychology and Assistance)	"	演習	30	(1)	高齢者の保健に寄与するため福祉の基本理念や高齢者福祉制度やサービスについて学習する。高齢者の身体的特徴を理解し、介護・介助のあり方およびコミュニケーション方法を学習する。高齢化社会における生命倫理、人間の尊厳について幅広く学習する。将来、はり師、きゅう師として関わることを想定し、高齢者の身体的・精神的特徴や高齢者を取り巻く環境を理解する。高齢者の身体特性を理解し、介助に必要な知識、技術を身につける。
専門基礎分野	人体の 構造と 機能	解剖学 I (Anatomy I)	"	講義	90	(3)	解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。解剖学 I では骨格系・筋系・循環系について総合的に学習する。人体を構成する各骨格、筋肉の名称や特徴ならびに骨の連結について理解する。筋の作用について理解する。筋の支配神経について理解する。血液組成と凝固について理解する。心臓機能・循環機能の調節について理解する。
		解剖学 II (Anatomy II)	"	"	90	(3)	解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。解剖学 II では内臓器系と循環系、神経系、感覚器系について系統立てて学習する。呼吸器系や内臓器系(消化器)、泌尿器、生殖器、内分泌器の基本構造を理解し、特に内分泌系は消化器、泌尿生殖器系など多岐にわたる関連するため系統立てて理解する。感覚器系においては各々の構造的特徴、その役割について理解する。
		生理学 I (Physiology I)	"	"	60	(2)	生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。生理学 I では人体植物性機能について学習する。血液組成と凝固について理解する。心臓機能・循環機能の調節について理解する。呼吸調節について理解する。消化吸収、排泄について理解する。代謝・体温調節機能について理解する。生殖機能、内分泌機能について理解する。上述の機能の一連の関係性について説明できる。
		生理学 II (Physiology II)	"	"	60	(2)	生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。生理学 II では人体動物性機能について学習する。神経の構造と機能(興奮と伝達)について理解する。高次中枢機能について理解する。筋の構造と機能(収縮メカニズム)について理解する。感覚器系、特殊感覚について理解する。上述の機能を関連付けて説明できる。
		運動学 I (Kinematics I)	"	講義	30	(2)	運動学では解剖学で学習した人体構造を基に人体の動きや動作のメカニズムについて学習する。運動学 I では筋の作用と関節可動を関連付けて学習する。関節の構造、動きを理解する。筋肉の起始、停止、支配神経を理解し、関節動作を理解する。

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	講義概要
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	運動学Ⅱ (Kinematics Ⅱ)	必修	演習	30	(1)	運動学では解剖学で学習した人体構造を基に人体の動きや動作のメカニズムについて学習する。運動学Ⅱでは運動学Ⅰで学習した正常な動きや動作を取り戻すための運動療法など診察、施術に活用できる知識と技術について学習する。動作観察より障害されている機能を推測できる。MMTについて説明できる。運動療法(ストレッチ)について適切に行うことができる。
		衛生学・公衆衛生学 (Hygiene and Public Health)	〃	講義	60	(2)	衛生学公衆衛生学は疾病予防と健康の保持・増進に関する科目である。人間の生活や社会、環境が健康にどういった関わりがあるのか理解するために公衆衛生の概念、環境と健康との関連、地域・学校・職域などの集団、個人を対象に疾病の予防と健康診断と健康増進などについて学習する。公衆衛生について包括的かつ実践的な公衆衛生活動について理解する。はり師、きゅう師の業にあたり、疾病の予防や健康の増進の知識を深めるとともに保健福祉の現状を理解する。
		病理学概論 (Introduction to Pathology)	〃	〃	60	(2)	病理学概論は病気の原理を理解し、基礎医学系と臨床医学系の架け橋となる科目である。病理学概論では疾病によっておこる様々な変化を発症機序と転帰について学習する。疾病の病因論について理解する。先天性異常、退行性・進行性病変、腫瘍について理解する。炎症、免疫異常・アレルギー、循環障害について理解する。老化と死について理解する。
		リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	〃	演習	60	(2)	リハビリテーション医学は身体的回復や生活、社会参加、職業復帰、さらには心理的側面まででき得る限りの回復を図ることを目的とした科目であり、リハビリテーションの理念と医学的リハビリテーションの対象や評価方法などについて学習する。医療連携演習を踏まえ、その他医療系資格を目指す学生と合同で実地シミュレーションを行う。呼吸器疾患や心疾患に対するリハビリテーションについて理解する。高齢者・地域リハビリテーションについて理解する。脳卒中・片麻痺、脊髄損傷、運動器疾患(スポーツ障害を含む)に対するリハビリテーションについて理解する。姿勢、身体各部の運動、歩行などの異常について理解する。他職種との協働するためにははり師きゅう師に必要な知識を理解する。
		臨床医学総論 (Clinical Medicine in General)	〃	講義	60	(2)	臨床医学総論は患者の状態を把握するために必要な現代医学的基礎的知識について学習する。鍼灸臨床上で病態把握に必要な診察技法、検査法や病状、疾病の判断に関する知識を体系的に養う。身体各部位の機能を解説し、障害発生時にそれらの機能が障害されることで現れる症状・所見を理解する。
		臨床医学各論Ⅰ (Clinical Medicine Part I)	〃	〃	60	(2)	臨床医学各論では今まで学習した解剖学、生理学、臨床医学総論などの現代医学的な基礎的知識を活用し、現代医学に基づいた疾患の概念、原因、症状などを系統別に学習する。臨床医学各論Ⅰでは整形外科疾患、脳神経外科、一般外科疾患、麻酔科や呼吸器内科など一般診療科の代表的疾患について学習する。整形外科疾患、神経疾患、小児婦人科疾患、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科内科、一般外科領域についての症状や診察結果を理解し、また検査結果から疾患や症候を想起できる。
		臨床医学各論Ⅱ (Clinical Medicine Part II)	〃	〃	60	(2)	臨床医学各論では今まで学習した解剖学、生理学、臨床医学総論などの現代医学的な基礎的知識を活用し、現代医学に基づいた疾患の概念、原因、症状などを系統別に学習する。臨床医学各論Ⅱでは内科系疾患、泌尿生殖器疾患、その他疾患について学習する。感染症、消化管、肝・胆・膵疾患、腎・尿管疾患、内分泌・代謝栄養疾患、血液・造血・循環器疾患、リウマチ・膠原病、その他領域についての症状や診察結果を理解し、また検査結果から疾患や症候を想起できる。
専門基礎分野	保健医療福祉と あん摩マッサージ 指圧、はり きゅうの理念	医療概論 (Outline of Medicine)	〃	〃	30	(1)	医療概論では日本の医療システムや医療を求め人々の心を知り、「病」とは「医学」とは「医療」とは何かの原点より、医療行為としての鍼灸をいかに社会に役立てていくかについて学習する。医療従事者として鍼灸施術を行うために社会保障制度や職業倫理についても学習し、鍼灸施術が社会的資源として活用できるよう知識を養う。医療の歴史について理解する。健康の概念、医の倫理について説明できる。医療の質と安全性、医療事故と責任について理解する。QOLとヘルスプロモーションについて理解する。上記を踏まえ、医療の現状と問題点などについて論ずることができる。
		関係法規 (Laws in Medicine)	〃	〃	30	(2)	関係法規では「はり師・きゅう師」の資格や業務に従事する上で必要な法律・関係法規等について学習する。 将来、「はり師・きゅう師」として業務にあたる上で必要な法律、関連法規(社会保障制度を含む)の解釈および、それに関連する事例などを学習する。免許資格に関する欠格事由や届出事項等に関して理解する。守秘義務の内容、必要性、患者の保護法規について理解する。業務形態に関する法規、広告に関する法規に関して説明できる。医師法、薬剤師法など関連法規や衛生法規等について理解する。
専門分野	基礎はり学・基礎きゅう学	東洋医学概論 (Outline of Oriental Medicine)	〃	〃	60	(2)	東洋医学概論は西洋医学とは違う視点(東洋哲学)で、健康と病気を診る科目である。東洋医学概論では東洋医学の基礎となる思想や哲学の理解と人体の生理観(気血津液、臓腑、経絡)、疾病観(病因、病機)などを学習する。東洋医学における人体のしくみや疾病の発生機序を理解する。東洋医学独自の整体観および疾病観などを学び気血津液や臓腑経絡の生理機能を説明できる。発病の要因となる正気や邪気概念を理解し説明できる。
		経絡経穴学Ⅰ (Acupuncture Meridians I)	〃	〃	60	(3)	経絡経穴学は鍼灸臨床の基本をなす科目であり、経絡経穴は身体の異常を表し、東洋医学的診察、施術には欠かせない重要なものである。経絡経穴Ⅰでは経絡の種類や走行、経穴名について学ぶ。各経絡、十二経全体の流注が説明できる。人体体表上、各流注の走行を説明できる。各経穴の所属経絡を説明することができる。
		経絡経穴学Ⅱ (Acupuncture Meridians II)	〃	〃	60	(3)	経絡経穴学は鍼灸臨床の基本をなす科目であり、経絡経穴は身体の異常を表し、東洋医学的診察、施術には欠かせない重要なものである。経絡経穴Ⅱでは経絡経穴Ⅰで学習した経穴および奇穴の取穴部位や取穴方法について解剖学的知識を基に学習する。同身寸法・骨度法について説明できる。十二経絡に含まれる経穴の取穴部位を説明できる。要穴について説明できる。奇穴部位の説明ができる。
		はりきゅう理論 (Scientific Foundation of Acupuncture)	〃	〃	30	(1)	はりきゅう理論は「はり術、きゅう術」の定義、はりきゅうの種類、それぞれの術式から始まり、鍼灸の作用機序等を生理学的観点から学習する。鍼灸の科学的研究や基礎医学的知識を通して鍼灸効効のメカニズムを学習する。人体における感覚器の機能的役割を理解し、説明できる。はりきゅう刺激の効効メカニズムを理解し、説明できる。

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時 間 数	単 位 数	講義概要
専門分野	臨床はり学・臨床きゅう学	鍼灸診察学Ⅰ (Diagnostics of Acupuncture and MoxibustionⅠ)	〃	演習	60	(2)	鍼灸診察学では東洋医学概論で学んだ知識を活用し、東洋医学的な診察法や病態把握の方法論について学習し、鍼灸臨床における問題解決、適・不適の判断能力を養う。
		鍼灸診察学Ⅱ (Diagnostics of Acupuncture and MoxibustionⅡ)	〃	〃	30	(1)	鍼灸診察学Ⅱでは総合的診察(プライマリケア)を理解し、はりきゅう臨床の適否のベースとなる病態把握についての考え方を学習する。画像診断の種類、基礎的知識、物理療法の種類、基礎的知識について学習する。
		東洋医学臨床論Ⅰ (Clinical Oriental MedicineⅠ)	〃	講義	60	(3)	東洋医学臨床論では臨床上で扱う一般的疾患・症候に対して幅広い対応が行えるよう現代医学的な考え方に基づく診察と施術について学習するとともに東洋医学的な観点からの診察と施術法についても学習する。特に東洋医学臨床論Ⅰでは呼吸器疾患、運動器疾患、脳神経疾患、末梢神経疾患等について学習する。
		東洋医学臨床論Ⅱ (Clinical Oriental MedicineⅡ)	〃	〃	60	(3)	東洋医学臨床論では臨床上で扱う一般的疾患・症候に対して幅広い対応が行えるよう現代医学的な考え方に基づく診察と施術について学習するとともに東洋医学的な観点からの診察と施術法についても学習する。特に東洋医学臨床論Ⅱでは消化器系疾患、循環器系疾患、泌尿器生殖器疾患に加え耳鼻科、眼科、膠原病等について学習する。
		臨床鍼灸学Ⅰ (Clinical Acupuncture and MoxibustionⅠ)	必修	講義	30	(2)	臨床鍼灸学は基礎医学系、臨床医学系で学習した内容を整理し、実際の臨床の場で活用できるよう問診から徒手検査、医療従事者としての身構え、心構えなどを養う科目である。臨床鍼灸Ⅰでは臨床の入口であり、医療従事者としての「心構え、態度、実践意識」を養い、また「患者とのコミュニケーション構築」に最も重要な働きを担う医療面接について、その重要性と基本的な医療面接の流れと技法について学習する。
		臨床鍼灸学Ⅱ (Clinical Acupuncture and MoxibustionⅡ)	〃	演習	30	(1)	臨床鍼灸学は基礎医学系、臨床医学系で学習した内容を整理し、実際の臨床の場で活用できるよう問診から徒手検査、医療従事者としての身構え、心構えなどを養う科目である。臨床鍼灸学Ⅱでは病態把握を行う際に必須となる身体計測や徒手検査等について学習する。
	体表観察 (Surface Observation)	〃	〃	30	(1)	体表観察は鍼灸臨床の場において体表を診察し治療部位を決定することから、体表から観察可能な局所解剖学の知識及び鍼灸臨床で重要かつ必要な経穴の取穴や各種反応点の観察技術について学習する。	
	社会はり学 社会きゅう学	社会はりきゅう学Ⅰ (Social Acupuncture and MoxibustionⅠ)	〃	〃	30	(1)	社会はりきゅう学では3年間の学生生活やはり師きゅう師の仕事の理解、自身の目指す「はり師・きゅう師」像、そして将来ビジョンについて主体的に設計し、判断する能力を養う科目である。社会はりきゅう学Ⅰでは1年次に必要とされる専門職を目指す学生の姿勢や態度、学校生活、学びの方法や技法について学習する。研修会やセミナーに参加し、鍼灸について更なる関心の喚起を促す。
		社会はりきゅう学Ⅱ (Social Acupuncture and MoxibustionⅡ)	〃	〃	30	(1)	社会はりきゅう学では3年間の学生生活やはり師きゅう師の仕事の理解、自身の目指す「はり師・きゅう師」像、そして将来ビジョンについて主体的に設計し、判断する能力を養う科目である。社会はりきゅう学Ⅱでは多様化する社会的ニーズについて学習する。研修会やセミナーに参加し、鍼灸について更なる関心の喚起を促す。
		社会はりきゅう学Ⅲ (Social Acupuncture and MoxibustionⅢ)	〃	〃	30	(1)	社会はりきゅう学では3年間の学生生活やはり師きゅう師の仕事の理解、自身の目指す「はり師・きゅう師」像、そして将来ビジョンについて主体的に設計し、判断する能力を養う科目である。社会はりきゅう学Ⅲでは社会人・医療従事者として求められる資質についてや社会人一般としての義務と権利について学習する。また就職活動にあたり必要な知識、マナーについても学習する。研修会やセミナーに参加し、鍼灸について更なる関心の喚起を促す。

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単位 数	講義概要
実 習		基礎はり実技 (Basic Acupuncture Practical Skills)	〃	実習	120	(4)	基礎はり実技でははり術の基本的操作の修得を図りながら日常的な臨床で使用される基本的な刺鍼手技を身につける。はりの基本的な操作を行うことができる。正確かつ安全に刺鍼操作することができる。日常臨床で使用される刺鍼技術と種類を理解する。実技における身だしなみについて理解する。
		基礎きゅう実技 (Basic Moxibustion Practical Skills)	〃	〃	120	(4)	基礎きゅう実技ではきゅう術の基本的操作の修得を図りながら、日常的な臨床で使用される基本的な灸灸技術を身につける。きゅう術の基本的な操作を行うことができる。正確かつ安全に灸灸操作することができる。日常臨床で使用されるきゅう法と種類を理解する。実技における身だしなみについて理解する。
		はりきゅう実技Ⅰ (Practice of Acupuncture and Moxibustion I)	〃	〃	90	(2)	はりきゅう実技Ⅰでは1年次の基礎はり・きゅう実技で修得した基礎技術や解剖学的知識を基に施術点を捉え、身体各部へ安全かつ衛生的な施術を身につける。解剖学的知識を基にリスクを考慮し、身体各部に施術することができる。顔面頭部へ安全かつ衛生的に施術できる。上肢へ安全かつ衛生的に施術できる。下肢へ安全かつ衛生的に施術できる。体幹に安全に施術できる。
		はりきゅう実技Ⅱ (Practice of Acupuncture and Moxibustion II)	〃	〃	90	(2)	はりきゅう実技Ⅱでは様々な症候や各診療科における疾患に対しての施術能力を養う。様々な症候等に対して西洋医学的、東洋医学的診察に基づいた施術ができる。
		はりきゅう実技Ⅲ (Practice of Acupuncture and Moxibustion III)	〃	〃	45	(1)	はりきゅう実技Ⅲでは多様化する社会的ニーズに対応しうる様々な施術能力を養う。様々な鍼灸療法について理解する。各種療法の適応について説明することができる。疾病、症候に合わせた療法を選択できる。・基礎はりきゅう実技ⅡではYNSAや反応点治療、経筋治療、吸角療法、小児鍼など各種療法について学習する。
		美容・老年鍼灸実技 (Beauty and Aging-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills)	〃	〃	45	(1)	美容・老年鍼灸実技では多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(美容・老年分野)を養う。美容鍼灸の概要、美容鍼灸の実際や代表的な美容トラブルに対するはりきゅう施術を身につける。高齢者に特有な疾患の病態の概要とはりきゅう施術の方法、また施術に際して身体機能低下などによる諸注意事項について身につける。美容鍼の目的とその効果について説明できる。美容と婦人科疾患の関係について理解する。トータル美容という概念ではりきゅう施術を身につける。廃用症候群に対するはりきゅう施術を身につける。はり師きゅう師に可能なケア方法を身につける。
		スポーツ鍼灸実技 (Sports-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills)	〃	〃	45	(1)	スポーツ鍼灸実技では多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(スポーツ分野)を身につける。はり師きゅう師に必要なスポーツ医学を基本とした傷害の予防、治療法やコンディショニングを身につける。スポーツ外傷・障害について理解する。スポーツ領域で用いられる物理療法について理解する。臨床で、遭遇しやすいスポーツ傷害の病態把握と施術方法を身につける。応急処置の知識、技術を身につける。
専門 分野	臨床 実習	臨床実習Ⅰ (Clinical Education I)	〃	臨床 実習	45	(1)	臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。臨床実習Ⅰは外来見学実習とし、病院、介護福祉施設、スポーツ施設にてはり師きゅう師の関わりと業務について学習する。臨床実習前試験を含む。臨床の現場においてははり師、きゅう師ができることを理解する。他職種とのかわり方、働きを理解する。個々の現場において鍼灸施術の適応を見極めることができる。
		臨床実習Ⅱ (Clinical Education II)	〃	臨床 実習	135	(3)	臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解させる。診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。カンファレンスにて症例報告を行うことができる。問題抽出、問題解決力を身につける。患者とのコミュニケーション力を身につける。保険診療の仕組みについて理解する。
総合 領域		総合演習Ⅰ (General Exercise I)	〃	演習	60	(2)	総合演習Ⅰでは1年次における国家試験該当科目についてグループワークを中心に復習し、総合的基礎知識を学習する。解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴学(履修範囲)について国家試験に出題されている問題レベルを正解できる知識を修得する。
		総合演習Ⅱ (General Exercise II)	〃	〃	60	(2)	総合演習Ⅱでは2年次における国家試験該当科目についてグループワークを中心に復習し、総合的な基礎知識を学習する。解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴学(履修範囲)、臨床医学総論、臨床医学各論について国家試験に出題されている問題レベルを正解できる知識を修得する。
		総合演習Ⅲ (General Exercise III)	〃	〃	120	(4)	総合演習Ⅲではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。総合演習Ⅲでは解剖学・生理学・臨床医学各論など国家試験主要科目について再学習する。国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。学習プランを逆算して作成できる。自身の苦手な科目、項目を理解する。プランに従って学習し、合格基準を達成する。
		総合演習Ⅳ (General Exercise IV)	〃	〃	120	(4)	総合演習Ⅳではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。東洋医学概論・経絡経穴学・東洋医学臨床論など国家試験主要科目について再学習する。国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。②学習プランを逆算して作成できる。自身の苦手な科目、項目を理解する。プランに従って学習し、合格基準を達成する。諸外国との鍼灸に関する違いを説明できる。
		医療連携演習 (Health Care Coordination Practice)	〃	〃	30	(1)	医療連携演習では他の学科の資格がどのような資格なのか、相互理解を深め、将来職種間の連携を通して最良の医療を提供する医療従事者を目指すに当たって必要な知識を養う科目である。医療全体像の変遷に基づき、専門領域を異にする医療、福祉の職種が患者を中心に関与することが求められている。包括的に患者のケアを行うためにそれぞれの役割、責務について学習し、医療の現状を踏まえて連携のあり方について検討する。他職種の業務内容(見方、考え方、アプローチの仕方)を理解する。